



# 動悸・心悸亢進

知っておきたい  
漢方4処方

皮膚の乾燥、  
易疲労感、  
手足の煩熱※



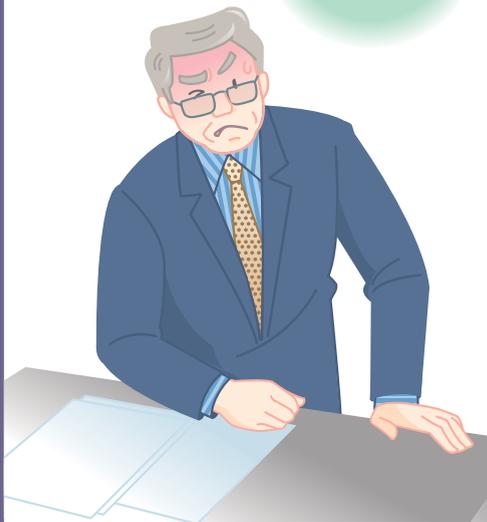
体力がおとろえて、  
疲れやすいものの動悸、息切れに

**64** ツムラ炙甘草湯  
エキス顆粒 (医療用) 薬価基準収載

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. アルドステロン症の患者
  2. ミオパチーのある患者
  3. 低カリウム血症のある患者
- [1~3: これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

腹部大動脈の  
拍動の亢進※



比較的体力があり、心悸亢進、不眠、  
いらだち等の精神症状のあるものの  
次の諸症

神経性心悸亢進症、  
高血圧症、動脈硬化症に

**12** ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯  
エキス顆粒 (医療用) 薬価基準収載

身体動揺感、  
たちくらみ※



めまい、ふらつきがあり、または動悸が  
あり尿量が減少するものの次の諸症

動悸、息切れ、めまい、  
頭痛に

**39** ツムラ苓桂朮甘湯  
エキス顆粒 (医療用) 薬価基準収載

冷え症で  
顔色悪く  
疲れやすい※



胃腸の弱い人の次の諸症

動悸、頭痛、  
慢性胃腸炎に

**82** ツムラ桂枝人参湯  
エキス顆粒 (医療用) 薬価基準収載

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. アルドステロン症の患者
  2. ミオパチーのある患者
  3. 低カリウム血症のある患者
- [1~3: これらの疾患及び  
症状が悪化するおそれがある。]

※使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学) 裏面参照

**12 ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯**  
エキス顆粒(医療用) (薬価基準収載)

**効能又は効果**

比較的体力があり、心悸亢進、不眠、いらだち等の精神症状のあるもの次の諸症：  
高血圧症、動脈硬化症、慢性腎臓病、神経衰弱症、神経性心悸亢進症、てんかん、ヒステリー、小児夜啼症、陰萎

〈参考:証に関する情報〉 使用目標=証\*

比較的体力のある人で、精神不安、不眠、いらだちなどの精神神経症状があり、胸膈苦満\*のある場合。

- 1) 頭痛、頭重、肩こりなどを伴う場合。
- 2) 臍腹に腹部大動脈の拍動の亢進を認める場合。

\*胸膈苦満:心窩部より季肋部にかけて苦満感を訴え、抵抗、圧痛の認められる症状をいう。

**使用上の注意**

1.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。2.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎:発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。2)肝機能障害、黄疸:AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2)その他の副作用

	頻度不明
過敏症注1)	発疹、発赤、痒疹、蕁麻疹等
消化器	胃部不快感等

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。4.妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。5.小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない] 6.その他の注意 海外で実施された複数の抗てんかん薬における、てんかん、精神疾患等を対象とした1999年のプラセボ対照臨床試験の検討結果において、自殺念慮及び自殺企図の発現のリスクが、抗てんかん薬の服用群でプラセボ群と比較して約2倍高く(抗てんかん薬服用群:0.43%、プラセボ群:0.24%)、抗てんかん薬の服用群では、プラセボ群と比べ1000人あたり1.9人多いと計算された(95%信頼区間:0.6-3.9)。また、てんかん患者のサブグループでは、プラセボ群と比べ1000人あたり2.4人多いと計算されている。(2009年7月改訂)

**39 ツムラ苓桂朮甘湯**  
エキス顆粒(医療用) (薬価基準収載)

**効能又は効果**

めまい、ふらつきがあり、または動悸があり尿量が減少するもの次の諸症：  
神経質、ノイローゼ、めまい、動悸、息切れ、頭痛

〈参考:証に関する情報〉 使用目標=証\*

比較的体力の低下した人で、めまい、身体動揺感、たちくらみなどを訴える場合に用いる。

- 1) 息切れ、心悸亢進、頭痛、のぼせ、尿量減少などを伴う場合。
- 2) 心窩部に振水音を認める場合。

**使用上の注意(抜粋)**

1.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

2.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2007年5月改訂)

**64 ツムラ炙甘草湯**  
エキス顆粒(医療用) (薬価基準収載)

**【禁忌(次の患者には投与しないこと)】**

1. アルドステロン症の患者
  2. ミオパチーのある患者
  3. 低カリウム血症のある患者
- [1~3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

**効能又は効果**

体力がおとろえて、疲れやすいものの動悸、息切れ

〈参考:証に関する情報〉 使用目標=証\*

比較的体力の低下した人で、動悸、息切れなどを訴える場合に用いる。

- 1) 皮膚の乾燥、易疲労感、手足の煩熱などを伴う場合。

**使用上の注意(抜粋)**

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)(1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等]があらわれることがある。〔2〕食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。]2.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 (3)ループ系利尿剤 フロセミド エタクリン酸 (4)チアジド系利尿剤 トリクロルメチアジド	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸及び利尿剤は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2007年5月改訂)

**82 ツムラ桂枝人参湯**  
エキス顆粒(医療用) (薬価基準収載)

**【禁忌(次の患者には投与しないこと)】**

1. アルドステロン症の患者
  2. ミオパチーのある患者
  3. 低カリウム血症のある患者
- [1~3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

**効能又は効果**

胃腸の弱い人の次の諸症：  
頭痛、動悸、慢性胃腸炎、胃アトニー

〈参考:証に関する情報〉 使用目標=証\*

比較的体力の低下した人で、食欲不振、悪心、嘔吐、胃部停滞感、下痢などの胃腸症状に頭痛、頭重、心悸亢進などを伴う場合に用いる。

- 1) 冷え症で顔色悪く疲れやすい場合。

**使用上の注意(抜粋)**

1.重要な基本的注意(1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

2.相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 (3)ループ系利尿剤 フロセミド エタクリン酸 (4)チアジド系利尿剤 トリクロルメチアジド	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。〔「重大な副作用」の項参照〕	グリチルリチン酸及び利尿剤は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

3.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。(2013年3月改訂)

※使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学)

(2015年 6月制作)  
(2016年12月改訂)

PSD028



■用法及び用量 通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

※(TJ-64)は1日9.0g

\*その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。



〒107-8521 東京都港区赤坂二丁目17番11号 <http://www.tsumura.co.jp/>  
お客様相談窓口 Tel.0120-329-970